◉「うちこ往来」は身近な町の情報を伝えるコーナーです。皆さんからの情報をお待ちしています。　企画情報課　広報・広聴係　☎0893（44）6151

町営路線バスがイメージチェンジ まちの魅力満載のラッピングバスが完成

内子町の観光資源を描いたラッピングバスが３月25日から運行を始めました。車体に内子座や小田深山渓谷、いかざき大凧合戦、大瀬の柿などをデザイン。日常的に目に触れることで地域の魅力を再認識してもらうとともに、ＳＮＳに投稿したくなる親しみのあるデザインで、内子町内外での認知度向上を図ります。車両は役場本庁と小田支所を結ぶ路線バス小田線で利用します。

いつもの道に、華やかな路線バスが彩りを添える

新しい春に、子どもたちの大きな一歩 町内小学校に新１年生が仲間入り

町内小学校の入学式が４月８日に行われ、79人が新たに学校生活をスタートさせました。五十崎小学校では１年生14人が、保護者や在校生に迎えられて入場。山本孝江（たかえ）校長は「勉強やスポーツ、学校行事などに、元気いっぱい取り組んで」とあいさつし、６年生が「困ったことがあれば何でも聞いて。一緒に楽しい学校生活を送ろう」と優しくメッセージを送りました。

真新しい標準服で、ちょっと緊張した様子の１年生

春風に乗って、にぎわい広がる 内子が誇る桜名所でイベントを開催

桜が町を彩った３月下旬から４月上旬、各地で春の訪れを楽しむイベントが行われました。

野村地区では「野村桜まつり」（同実行委員会主催）が３月29日に開かれました。干し芋や芋餅など、地域産サツマイモの加工品販売は大人気。来場者は満開になった野村のしだれ桜を写真に収め、花見を楽しみました。同区長の本田健一（けんいち）さんは「始まって10年以上。地域の催しとして定着してきた。県外のお客さんも多く、見頃の桜を楽しんでもらえてよかった」と笑顔でした。

４月５日には立石地区で「立石まるごと春まつり」（立石を愛でる会主催）が開かれ、約300人が来場しました。釜揚げうどんの食べ放題や焼き鳥販売は今年も大好評。代表の本田武夫（たけお）さんは「来年もまた来ます、という声が続けられる原動力。地元の人も地域のことをもっと好きになるきっかけになればうれしい」と語りました。

その他、長岡山四季の詩公園、石畳東地区、上川地区などでも春の訪れを楽しむ集いが開かれ、各地でにぎやかなひとときを楽しみました。

1_咲き乱れる野村のしだれ桜と菜の花が催しを彩った
2_石畳東のシダレザクラ祭りで特産のそばを味わう参加者
3_尾首の池で家族だんらん　4_長岡山四季の詩公園さくらまつりに、たくさんの子どもたちが来場

▲◀こどもファースト芽吹き

▶▼ＧＨ（グループホーム）Sa.おいでや内子

地域で自分らしく過ごすために 困りごとに寄り添い支える施設が新たに完成

利用者の自立に向けた福祉サービスを提供する事業所が町内に完成し、４月から運営を始めました。

児童発達支援事業所「こどもファースト芽吹（めぶ）き」は、発達特性がある子どもなどに向けた通所施設です。対象は０～６歳で定員は１日10人。相談支援事業所を併設し、困りごとを軽減してできる喜びを感じ、伸び伸び過ごせるよう運動や健康など多角的に成長を後押しします。統括責任者の藤澤智（とも）さんは「送迎もあり体験も可能。地域で必要な支援を受けながら個性を伸ばして」と語りました。

「グループホームSa.おいでや内子」は、障がいのある人が日常生活上の援助を受けながら共同で暮らす施設です。原則18歳以上が利用でき、男性用・女性用の２棟があります。利用者間でつながりを持ちながら生活できるよう、スタッフが食事や金銭管理、服薬などをサポートします。管理者の土井浩司（こうじ）さんは「内子町の皆さんの自立に向けた安心の暮らしを支援できれば」と話しました。

※利用には町の認定が必要です。まずはご相談ください。
【問い合わせ】保健福祉課　☎０８９３（４４）６１５４

和紙と押し花を使った障子張り体験の様子

選ぶ楽しさと作る喜びを感じる２日間 こだわりの食と雑貨が並んだ手作り市

「ＩＫＡＺＡＫＩ（いかざき）クラフトフェア」が４月11・12の両日、凧博物館で開かれました。17店舗が出店し、和紙のアクセサリーや木製食器、食品などを対面販売。天然石や植物などの素材を生かしたものづくりワークショップも行われました。主催者の成田幸子（さちこ）さんは「インターネットで買える時代だからこそ、地域の香りが伝わり、作り手と使い手が触れ合える場を大切にしたい」と話しました。

末っ子・陽翔（はると）くんの名前を書いた太田さん家族

一筆一筆、わが子への思いを込めて―― すくすく育てと願う「出世凧名前書き」

「出世凧名前書き」が４月12日、共生館で行われました。初節句を迎える子どもの健やかな成長を願う催しで、102組の家族が参加。丁寧に筆を進め、大凧に子どもの名前を書き入れていました。太田里奈（りな）さん＝内子13＝は「元気に育ってほしいという気持ちで書いた」と笑顔を見せます。また手形や足形を押すミニ凧づくりを初開催。子どもの成長の節目を思い出に残していました。